

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人有馬福祉会
施設名	ろっこうARIMA保育園
報告者（役職）	寺林 徹（理事長）
住所・連絡先	神戸市灘区八幡町4丁目5-13
	☎ 078-871-2323
	E-mail arima-hoikuen@eagle.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

たくましく・伸び伸びと育て！

○主な助成備品

丸太越え、ジグザグウォーク、階段、丸太ステップ、跳び箱、鉄棒、マット、運動会用具など

1. 保育計画策定の目的

幼児期の運動は、非常に重要であり、あらゆる発達の基礎となる。また体力づくりは病気の予防や怪我の防止等にも役立つ、しかしながら近年の子どもたちは遊び場の減少、交通事故の恐れ、車等の交通機関の普及等々による運動量の低下が見られる。幼児にとって体を動かして遊ぶ機会が減少することは、その後の児童期、青年期への運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成の阻害に止まらず、意欲や気力の減弱、対人関係などコミュニケーションをうまく構築できないなど、子どもの心の発達にも重大な影響を及ぼすことにもなりかねない。このような状況を踏まえると、主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を、幼児の生活全体の中に確保していくことが重要である。また歩行から体操運動など体の発達、運動遊びを通しての考える力など様々なことを養う必要がある。幼児は心身全体を働かせて様々な活動を行うので、心身の様々な側面の発達にとって必要な経験が相互に関連し合い積み重ねられていく。このため、幼児期において、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、多様な動きを身に付けるだけでなく、心肺機能や骨形成にも寄与するなど、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど、豊かな人生を送るための基盤づくりとなる。上記の目的のため計画を策定した。

2. 具体的な実施内容

(1) 各種運動器具（跳び箱、マット等）による運動

幼児期は、神経機能の発達が著しく、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が顕著に向上する時期である。この能力、新しい動きを身に付けるときに重要な働きをする能力であるとともに、周りの状況の的確な判断や予測に基づいて行動する能力を含んでおり、怪我や事故を防止することにもつながる。また、日ごろから体を動かすことは、結果として活動し続ける力（持久力）を高めることにもつながる。これらのことを目的としてマットを活用した柔軟運動、ブリッジ歩き、逆立ち、側転、また跳び箱を活用して毎日運動を続けている。

逆立ち歩き 6m
跳び箱 5段
側転 全員
前方回転 60% など



(2) 運動会での各種用具の活用

運動会では、購入させていただいた様々な用具を使って全身を使い親子ともども楽しい運動会ができた。



3. その成果と評価

(1) 各種運動器具（跳び箱、マット等）による運動

- ①毎日の運動の積み重ねにより、子どもたちの運動能力は飛躍的に発達した。
- ②柔軟運動を基本としているため、体が柔らかく、大きな怪我など昨年度は1例もなかった。
- ③子どもたちに達成感と自信が付き、自ら行動を起こせるようになった。

(2) 運動会での各種用具の活用

- ①皆で協力して楽しむことを覚えた。
- ②練習・本番を通して体だけでなく心も鍛えることができた。
- ③「できた」という達成感を味わうことができた。

4. 今後の課題と展望

運動は継続することが大切であり、今後とも毎日体を動かし、心身ともに大きく成長できるように支援していきたい。

以上